

令和5年度学校図書館活用推進事業実践報告

新潟市立東青山小学校

教諭 山口 由美子

司書 西脇 紀子

1 図書館教育の目標

- ・学習で図書館や図書資料を利用することによって、目的に応じた情報を収集し、課題解決を図る態度を育てる。
- ・いろいろな本に親しむ態度を育てる。

2 東青山小学校における図書館利用の実態

- 昨年度の学校生活アンケートでは、「読書をするのが好き」と答えた児童が88.2%。
貸し出し冊数は、全校で59,024冊。

→ 本に親しんでいる児童が多い。

- △ 同じ本ばかりを読んでいる。 } いろいろな本を読んでほしい。
- △ 読書が好きでない児童もいる。 } 本を学習や生活に役立ててほしい。

3 今年度の取組

- (1) 小中連携の取組 ⇒ 共通テーマ **本を通してよりよく生きる**

① 共通テーマの設定・掲示

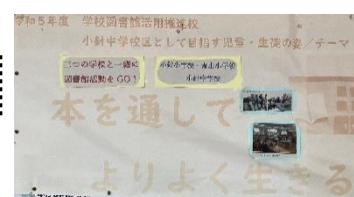
中学校区で同じテーマを設定し、年間を通して掲示することで、共通の意識をもって取り組むことができた。

② 「おすすめの本」の紹介

図書館に小中連携コーナーを作り、各校の貸し出しベストテンや人気図書、また、中学生が小学生の時に読んで心に残った本などの情報を交換し、ランキングと本を合わせて展示した。

③ 中学校の図書館紹介動画

小針中学校から図書館の紹介動画を送ってもらい、6年生児童が視聴した。その後、中学校へ動画を視聴して分かったことや感想、お礼のメッセージを送った。



- (2) 読書センターとしての図書館の活用

① チャレンジコース・エキスパートコース、新刊コーナーの設置

チャレンジコースは1・2年、3・4年、5・6年、エキスパートコースは初級・中級・上級の各3コースを設置し、自分の読む力に合わせて多様な本に親しめるようにした。各コース読了者には、修了証とプラス貸し出し券を渡し、次への意欲につなげた。

また、新刊コーナーを設置し、図書の時間に司書が本の内容やおすすめポイントを紹介することで、様々な本への関心を広げることができた。



② 「読書の記録」カードの活用

読み終わった本の感想を記入したり、チャレンジコースの本の一覧にチェックを入れたりすることで、自分の読んだ本を振り返ったり、読書への意欲を高めたりすることができた。

③ 読書旬間の取組

・「物語の世界へ GO！」→物語の本を多く借りた児童がお気に入りの本のタイトルを書いた紙を貼り、全校でお気に入りの本棚を完成させて掲示した。友達のお気に入りの本を見て、借りるときの参考にしている様子が見られた。



・先生方から書店のポップのような形式で「おすすめの本」の紹介カードを書いてもらい、本と一緒に展示した。児童の読書意欲を高めるのに、とても効果的だった。



・借りた本の冊数ですごろくのマスを進め、ゴールした児童にくじ引きで貸し出し券を配付した。授業時間以外にも、休み時間に本を借りに行く児童が増えた。

④ 朝読書・読み聞かせの時間設定（朝学習時）

学び部との連携で、毎週月曜日に全校で朝読書を実施した。また、地域ボランティアの方々による読み聞かせを学年ごとに実施し、授業時間以外にも本に親しむ時間を設けた。



⑤ ファミリー読書

長期休業の課題としてファミリー読書を実施した。本を読んだ感想や、保護者からのコメントを書いてもらい、各学級で掲示するとともに、参考作品を図書館において活用した。家庭での親子のコミュニケーションのきっかけにもなり、保護者からも好意的な感想が多く寄せられた。

⑥ 「ミッション・ポッシブル」のイベント

図書館の本棚にAからZまでの記号を表示し、ボックスの中から選んだボールに書いてある記号の棚から1冊本を借りるイベントを企画した。ゲーム感覚で、物語や絵本以外にも様々な分野の本を楽しめるよう工夫した。



(3) 学習・情報センターとしての図書館の活用

① 担任のための図書館オリエンテーション

司書が不在でも、児童が滞りなく図書室を利用できるよう、操作の手順や注意点などについて、職員研修を行った。

② 指導計画に基づく学年の本棚設置

図書館指導計画に基づき、教科書の内容に関連した図書資料を司書が用意。各学年の教室前に学年の本棚を設置して、いつでも学習に活用できるようにし、各学年で図書資料を使った授業実践を行った。



③ 新聞を読む環境の整備

図書館に新聞コーナーを設置し、新聞を読んだり、貸し出ししたりできるようにした。また、各教室に毎日新聞を配付して新聞に触れる機会を増やし、教材として授業に活用しやすいようにした。



④ 新聞スクラップコンテストの推奨

夏季休業中の課題として、「新聞スクラップコンテスト」への応募を推奨し、学校として団体賞を受賞した。

4 成果と課題

今年度の学校生活アンケートから

「読書をするのが好き」→ 肯定的評価が88.7%。

今年度の貸し出し冊数 全校で61,230冊

【成果】

- 昨年度に比べて、「読書が好き」と肯定的に答える児童、貸し出し冊数ともに多くなった。
- あまり本に親しんでいなかった児童も、図書館のイベントや本を活用した学習により、興味・関心をもって本を読んでいた。
- 授業でいろいろな本を活用したり、様々な分野の本を紹介したりすることで、読んで得た知識を学習に役立てることや読書意欲の向上につなげることができた。

【課題】

- △ 学年が上がるほど、図書館を利用する時間がなかなかもてない。図書資料を活用した学習や朝読書等で、本に親しむ時間を確保していく必要がある。
- △ 読書が好きかどうかについては、個人差が大きい。児童の読書傾向を把握し、読書への興味・関心が広がるような取組を考え、図書館に足が向くような工夫をしていきたい。

タブレットの導入によって、児童のICT活用の力も高まり、調べたい情報がすぐ手に入るという点では便利になった。だが、やはり紙の本を手にするからこそ、資料を読み解く力や文字から想像する力が身に付く面もあると考えられる。今後も、各学年と連携し、「読書センター」「学習・情報センター」として、読書の大切さを実感しながら、本に親しみ、本を活用できるような手立てや取組を考えて実施していきたい。